



末吉小だより

横浜市立末吉小学校
学校だより

令和5年 **2月号**

「ときめき」のある、充実した学校生活を

副校長 菅野 範子

新しい年が明けてから1ヶ月経ちました。あっという間の1ヶ月、まだ1ヶ月・・・人それぞれ時間の感じ方は違うかと思えます。私自身は「この前お正月を迎えたばかりなのに！」と時間が過ぎる早さにびっくりしています。

さて、時の過ぎ方といえば、あるテレビ番組で、「大人になるとあっという間に時間が過ぎるのは、**ときめき**がなくなったから」という内容を放送していました。大抵の大人は長く生きていく間に知識と経験を積み重ね、新しい体験をする機会は減り、分かっている・知っていることの中で単調な毎日をご過ごすことが多いかと思えます。なので、「ときめき」を感じる事が日常生活の中で少なく、時間が過ぎるのもあっという間に感じるのではないのでしょうか。

では、子どもはどうでしょうか？番組では、自分の感じる時間と実際の時間は、19歳頃から同じになると伝えていました。ということは、19歳頃までは自分の感じる時間は大人と比べてゆっくりだということなのでしょう。そしてそれは「ときめき」を感じる事が多くあるからなのでしょう。

子ども時代は毎日が新しい出来事の連続です。はじめての経験や体験、はじめて知ること、はじめて行く場所、はじめて出会う人、はじめて聞く話、はじめて聴く音楽、はじめての味、はじめて感じる想いなど。はじめてのものに対する時、「これはなんだろう？」「これは〇〇と似ているな」「なんだか良い感じだな」「分からないな。どうしたら良いのだろう」などと、一つ一つ考えながら子どもは覚えていったり慣れていったりすることだと思います。考える事が多くあることで、時間はゆっくり過ぎていっているように感じるのかもしれませんが。

そして、そのはじめてに「ときめき」があるか・・・。「ときめき」の意味を図書室にある国語辞典で調べてみました。「ときめく」という動詞で載っている意味は「喜びや期待でときどきする」喜びや期待。新しい出来事、はじめてのものに「なんだか良さそうだな」「楽しいな」とときめきを感じられることで、さらに中身の濃い充実した時を過ごせることだと思います。

「今日学校でね、～があって、～を勉強して、友だちと～で遊んで、給食は～で・・・」とご家庭で笑顔で話せる、そんな充実した学校生活を過ごすことができるよう、学校は日々の授業や教育活動を工夫し、喜びや期待を子どもたちがもてるように取り組んでいかなければならない、と改めて強く感じました。「なんだか1日って長いなあ。でも楽しかったなあ。」と末吉っ子の一人ひとりが今のこの子ども時代を豊かに過ごせるように、学校ができることをこれからも探索し、「ときめき」がたくさんある魅力ある学校をつくっていきます！

体育館に空調がつけました！夏は涼しく、冬は暖かく、体育などの活動が快適にできます！

